

よくある言い回しを手がかりに

前回の続きです。実は今回は、この講座始まって以来の難問続きです。



(s)は最初が「御」で、これは問題なし。次の **證** は、^{へん}偏が典型的な「言」で、^{つくり}旁は「登」という字です。したがって「證」という字なのですが、「證」は「証」の旧字体です。証券会社でも「證」の字を使うことがありますね。次の **文** は、この字だけ見たら「又」ですが、上が「証」なので「証文」しかありません。

さて、**相**の部分が大問題です。**相**の部分が「相」や「物」にも見え、その下は「尽」にも見えます。さらにその下には **見** という得体の知れない字が...

この部分は、ここまでとはレベルが違うので、まだ読めなくても大丈夫

です。どう読むかという、最初の **相** が「相」という字です。これは知らないと言えま

せん。最後の **節** は角張った崩しですが、下の **見** のパーツに、前回登場した **見** (節) の

部分の **見** (節) の面影があるのです(慣れていれば、の話です)。したがって **見** は「節」?? くらいの

感じですが、戻って、「相」の下の「尽」のような部分ですが、**見** (節) という語句を使った、よくある言い回しは「**見** 之節」なので、「之」は隠れていないか? (「節」の上の字は「之」ではないか?) と探すと、**見** (之) という部分が見えてきます。すると、「尽」に見える部分は、1文字ではなく、2文字で「**見** 之」かもしれない、と考えることができるのです。

最後に残った **見** の部分ですが、**相** (相) と組み合わせて「相見」? と仮説を立てられれば、**見** が「見」という字に見えてくるのです。まとめると、(s)「御証文相見之節」となり、意味も通ります。

こんな感じのくずし字が読めると、パズルを解いたときのような、すっきりした感じがあります。今回の(s)が読めた方は、くずし字を読む醍醐味に少し浸れたのではないのでしょうか。

